

### 3. 【国際日本専攻 国際日本コース志願者の課題】

対象となる志願者	課題記号	課題	
国際日本コースの志願者	Q	<p>下記に指定する論考(1)~(8)の中から、1つを選び、その概要をまとめた上で、あなたの見解を述べてください。概要を2,000字程度、見解を1,000字程度とし、計3,000字程度にまとめること。            なお、(1)(2)は日本語学、(3)(4)は日本語教育学、(5)(6)は日本文学・文化、(7)(8)は日本社会研究の各領域より出題された論考です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 選択する論考は、各自の入学後の専門を考慮すること。</li> <li>・ 記述言語は日本語とします。ただし、*印の付された論考は、英語で解答することも可とします。英語で解答する場合、概要を800語~1,000語、見解を400語~500語程度にまとめてください。</li> <li>・ 図表を使用した場合は、字数/語数には含めません。</li> </ul>	
		論考番号	論考
		(1)	服部四郎 (1950) 「附属語と附属形式」 『言語研究』15号, pp. 1-26, 103-104. <a href="https://www.jstage.jst.go.jp/article/gengo1939/1950/15/1950_15_1/_pdf/-char/ja">https://www.jstage.jst.go.jp/article/gengo1939/1950/15/1950_15_1/_pdf/-char/ja</a>
		(2)	国広哲弥 (1965) 「日英温度形容詞の意義素の構造と体系」 『国語学』60集, pp. 74-84. <a href="https://bibdb.ninjal.ac.jp/SJL/getpdf.php?number=0600740840">https://bibdb.ninjal.ac.jp/SJL/getpdf.php?number=0600740840</a>
		(3)	山本富美子・二通信子 (2015) 「論文の引用・解釈構造—人文・社会科学系論文指導のための基礎的研究—」 『日本語教育』160号, pp. 94-109. <a href="https://www.jstage.jst.go.jp/article/nihongokyoiku/160/0/160_94/_pdf/-char/ja">https://www.jstage.jst.go.jp/article/nihongokyoiku/160/0/160_94/_pdf/-char/ja</a>
		(4)	野田尚史 (2009) 「言語の教育からコミュニケーションの教育へ—非母語話者に対する日本語教育を例にして—」 『社会言語科学』12巻1号, pp. 67-79. <a href="https://www.jstage.jst.go.jp/article/jajls/12/1/12_KJ00008440274/_pdf/-char/ja">https://www.jstage.jst.go.jp/article/jajls/12/1/12_KJ00008440274/_pdf/-char/ja</a>
		(5)	村尾誠一 (2007) 「正徹和歌の特質：『前撰政家歌合』を視座に」 『東京外国語大学論集 (Area and Culture Studies)』no.73, pp. 213-197. <a href="http://repository.tufs.ac.jp/bitstream/10108/24100/1/acs073010.pdf">http://repository.tufs.ac.jp/bitstream/10108/24100/1/acs073010.pdf</a>
		*(6)	シャルル・マルタ・デュイスシロ (2014) 「武田麟太郎の日本的オリエンタリズム—『ジャワ更紗』における同一性論を中心に」 『比較文学』57巻, pp. 80-93. <a href="https://www.jstage.jst.go.jp/article/hikaku/57/0/57_80/_pdf/-char/ja">https://www.jstage.jst.go.jp/article/hikaku/57/0/57_80/_pdf/-char/ja</a>
		*(7)	FUESS Harald (2014) Informal Imperialism and the 1879 Hesperia Incident: Containing Cholera and Challenging Extraterritoriality in Japan. Japan Review: Journal of the International Research Center for Japanese Studies. 27, pp.103-140. <a href="http://doi.org/10.15055/00007152">http://doi.org/10.15055/00007152</a>
		*(8)	落合恵美子 (2017) 「つまずきの石としての1980年代：「半円縮近代」日本の困難」 『失われた20年と日本研究のこれから・失われた20年と日本社会の変容』pp. 171-182. <a href="http://doi.org/10.15055/00006549">http://doi.org/10.15055/00006549</a>